



文学部・文学研究科 北村 昌史

ご入学おめでとうございます。青雲の志をいだき大阪市立大学での生活に臨まれる皆さんは、たぶん、市大での勉学に不安を強く感じられていることかとおもいます。

でも、私は知っています。NHKの「チコちゃんに叱られる」を楽しめる人なら、大丈夫です。この番組、知らない人はいないとおもいますが、一応の説明はしておきます。

5歳のチコちゃんが、大人の解答者たちに素朴な疑問をぶつけます。私が最近の放送で気に入っているのは、「たこあげはなぜ『たこ』』というのです。だいたいが意表を突くような質問なので、聞かれた大人はすぐに答えられず、とはいえず5歳の子供の質問なので必死になって説明を試みます。おおむね満足のいかなない説明に終了します。それで切れたチコちゃんを叫びます。

「ポーツと生きてんじゃねーよー」

それから、チコちゃんが答えを言います。先ほどのたこあげの答えは「イカが禁止されたから」というものです。もともと「イカ」と呼ばれていたのが、江戸時代に禁止されたので抜け道として「たこ」と

アン ロゾ Un roseau

総合教育科目ガイドブック

No.21

タイトル“Un roseau(アン ロゾ)”
—— 一本の葦 —— について

B.Pascal (1623-1662) は、一人一人の人間の存在を一本の葦に例えました。
葦は河岸や湖岸などの水辺に生える、ススキに似た植物です。
その存在は真にはかなく、人も同様で、その存在はきわめてはかないものであると…。
しかし、Pascalは言うのです。

L'homme n'est qu'un roseau, le plus faible de la nature, mais c'est un roseau pensant.
(ロム・ネ・カン・ロゾ、ル・プリユ・フェーブル・ドウ・ラ・ナトゥール、メ・セタン・ロゾ・パンサン)

—— 人は一本の葦に過ぎない。自然界でもっとも弱いものだ。しかしそれは考える葦だ。——

人間は水辺の一本の葦のようにはかない存在ではあるのだが、
考える(思考する、思想する)という行為によって有形の現象の世界(形而下の世界)のみならず、
その奥にある広い広い世界(形而上の世界)を知ることができる存在なのだ。
Un roseauとは「あなた」のことなのです。



工学部・工学研究科 村上 晴美

新人生のみなさん、ご入学おめでとうございます。まずは自己紹介から。私は文学部に入学し、心理学を専攻しました。卒業後計算機の会社に就職。地検検索システムを開発して、英国の計算機科学の大学院(修士課程)に留学する機会もありました。退職後にまた大学院(博士課程)に行き、情報科学研究科で人工知能の研究を行いました。三十四歳で大阪市立大学の学術情報総合センターに就職し、図書館情報学もはじめることになりました。学内で二回の異動があり、現在は工学部に所属しています。

さて、今回「学び」というお題で文章を書く機会が与えられました。学部の四年間は部活が中心であまり真面目な学生ではなかったので偉そうなことはいえないのですが、五十代の今、広い意味で「学び」について思うことをお伝えしたいと思います。少しでも昔話におつきあいください。大学生生活を送る上でヒントになれば幸いです。

学部での四年間

(部活動)

呼ばれるようになったということ。チコちゃんの答えをうけ、専門家による説明があります。専門家の説明自体はまじめなものです。その説明を番組のスタッフが面白おかしく構成した「こうだったかもしれない劇場」といった映像が流れます。これで、専門家の説明にバラエティ番組的色彩があたえられます。着ぐるみにCGで顔の変化が加えられたチコちゃんは、きわめて表情豊かであり、チコちゃんと大人たちの軽妙なやり取りなども交え、「チコちゃんに叱られる」は、楽しいバラエティ番組に仕上がっています。番組自体は好きがありますので、「市大生観るべし」などと申しませんが、一度次の2つの点を気にしながら番組を観ていただけたらうれしいです。

「諸説あります」

まず、専門家の説明が一段落ついたところでさりげなく入る「これについては諸説あります」とか「これは監修者の個人的な見解です」といった言葉です。結局、チコちゃんの答えも一つの説明にすぎず、絶対的なものではないことを、こうした言葉が表しています。この点が大学の勉学にとって極めて重要であることをここで強調したいとおもいます。

高校までの、とくに受験につながる部分の教育は、教科書を軸に確かな知識を積み上げていくことが主眼といえます。これに対して、大学では、教員が自分の研究に基づいて、学生に知ってもらいたいことを授業などを通じて伝えていきます。その研究そのものがオリジナリティを求めて行われるものなので、授業の内容についても教員の数だけ説明や見解がある

ことになります。まさに「諸説ある」が教員の「個人的見解」が語られるのが大学の授業なのです。

授業の土台となる研究も、研究そのものの進展だけではなく、社会の変化に対応してどんどん変化していきます。たとえば、原発事故も含めた未曾有の大災害となった2011年の東日本大震災は、関連する研究分野に大きな課題を突き付けました。隈研吾さんや伊東豊雄さんといった建築家が震災後に書いた書物を読めば、頑丈な建物を建てれば大丈夫という前提が大震災で崩れ去り、それをうけて新たな建築の方向性を作り出そうという彼らの苦闘が良く理解できます(隈研吾「小さな建築」岩波新書、2013年、伊東豊雄「あの日からの建築」集英社新書2012年)。ほかの学問分野でも似たような動きがあるとおもいますが、それは市大での勉学の中で十分感じられるでしょう。

大学の授業内容は将来的に古びていつてしまふ可能性が高いことは了解してください。では、大学で何を学ぶのかという、「諸説ある」のをふまえながら、自分の「見解」を導き出す思考のプロセスを身に付けていくことにあるかとおもいます。

これは、大学で教わる知識が無意味ということをいっているのではなく、現在の学問の考え方の中での知識をしっかりと身に付けてはじめて、後々の研究や社会の変化に対応した自分の「見解」を作り出すことが可能になるのです。大学での勉学は、このような形で皆さんの今後の人生に役に立つものと認識してください。

大学生生活で一番力をいれたのは、体育会の部活動(卓球)です。引退するまで週六日ほど練習しました。卓球は高校からですが、はじめた理由は、楽しくできて、低身長でも勝てそうに思えたからです。部活をする仲間もできます。決まった時間に運動するというのは、健康面だけでなく、友達作りのにもとてもよかったです。遊びの約束をしなくても会えます。部活動の同期、先輩後輩は一生物のお付き合いとなっています。(アルバイト)

アルバイトは喫茶店(今はカフェと言いますね)、家庭教師等を経験しました。この中、四年間通って働いたのは喫茶店です。働くことの意味・他人を楽にする、自分の時間と労力とひきかえにお金をもらうこと、等を実感しました。不器用でコピーをこぼしたりしてよく叱られました。仕事は期待に応えることが大事であることを学びました。(共通教育)

学部の一、二年は教養部でさまざまな一般教養科目を学びました。今は日本中ほとんどの大学に教養部がなく、科目は共通教育等と呼ばれています。大学に入ってはじめて受ける授業のためか、多くの記憶が残っています。「人はガンになるまたはその前に死ぬ」と聞いたこと、有名な数学の先生の授業を見学に行ったから教室から人があふれていたこと(単位はとりませんでした)、ドイツ語の授業で外国語が苦手な人の気持ちがあわかったこと、プログラミングの授業(計算機センター)の講習だったかも)で挫折したこと、体育の授業が女子の多い文学部と男子の

多い工学部が一緒だったこと、等々。京都大学の先生には面白い方が多く、先生方に憧れたことが大学の先生になりたいと思っただけの一つです。今から思うと勝手に誤解していた面もあるのですが、好きなこと、面白そうなことを自由にさせているイメージで、人生楽しそうでした。(卒業論文)

大学のカリキュラムの「学び」の中で一番楽しかったのは卒業論文です。自分の興味で「歌の記憶」について調べてまとめました。アンケートを作成して授業等で配布し、分析しました。当時はスマホが存在しないのももちろん、パソコンも持っていません。心理学の各種検定はよくわからないし利用できる統計ソフトもありません。大学院の先輩に指導を受け、統計については先輩自作のプログラムで解析していただきました。手書きで卒業論文をまとめるのは大変でしたがとても楽しかったので、一度社会に出るけど、いつか大学に戻って、調べて書いてまとめる日々をおくりたいと思いました。

卒業後

その後については、冒頭に書いたとおりです。文学部に入学したときには、工学部の教員になるとは思ってもありませんでした。学部で挫折したプログラミングは会社と大学院で学び直しました。英国に留学したので英会話も少し上達しました。手計算または他人頼みだった統計は統計ソフトで一瞬です。わからないことはまず検索エンジンやSNSで調べます。図書館で本を探すこともあります。どうしてもわからないときは詳しい人に聞きます。

「チョコちゃんに叱られまじょう」

ところで、「チョコちゃんに叱られる」でもっと大事な点は、この番組に登場する大人たちが「ボーツと生きてんじやねーよ！」といわれることを期待して、「まちがえることを楽しみにしていることでしょうか。もちろん、5歳の子に説明するという設定なので皆さん誠実に対応しようとはしますが、解答者は正解を絶対出さずと考えていません。中には奈良出身のタレントさんが奈良の大仏の問題なら外すわけにはいかないと頑張ったり、何も知らない大人が偶然あててしまったりすることもありますが、基本的にはまちがうことがこの番組では「是」とされています。正解をあててしまうことをこの番組では「チコる」といい、チコってしまつと、「チョコちゃん」は本当に残念そうに、「つまんねえやつだなあ」とジェスチャーを交えながらいいます。

受験勉強に集約される皆さんの今までの学習は、一定の範囲内の知識を身につけることを前提にしており、まちがうことは不勉強を意味しているように感じられているかもしれません。これに対して思考のプロセスを身につける大学での勉強は、そもそも正解はありませんし、一朝一夕に身につくものでもありません。みなさん、まちがって当たり前と考えるください。

学共通科目の「西洋史の見方」では毎時間終わりに課題を出し、次の時間に理解の足りない部分や、逆に発想の面白い点を紹介しております。

みなさん、こうした授業では、チョコちゃんに叱られるかもしれませんが、いっぱいまちがえまじょう。大学の教員は学生がまちがったところで、「ボーツと生きてんじやねーよ！」とはいっていません。

実際の授業では学生がまちがってくれたほうが、論点の説明がおこないやすくなることも多いです。先ほどの「たこあげ」の話でも、形から説明しようという大人の説明に、チョコちゃんがいろいろ突っ込んで納得しなかつたので、あげる「たこ」と生き物の「たこ」を直接つなげないチョコちゃんの答えと専門家の説明が腑に落ちるという仕掛けになっています。

私は、学生が主体的にかかわる「西洋史演習」や「西洋史講読」といった授業では次のように学生に促しています。

「まちがわれないのならそもそも授業に必要はない。学生のまちがいも大事な教材になるので臆せずまちがってほしい。」

なお、大学での勉強に関しては諸説あり、以上はあくまでも北村の個人的見解です。

北村 昌史(きたむらまさひみ)

1962年生まれ

1992年 京都大学大学院文学研究科研究

指導認定の上退学 博士(文学)

現在、文学研究科教授

専攻分野/近現代ドイツ社会史

全学共通教育での担当科目/「西洋史の見方」

英語はネイティブの方に相談します。OCTURニングセンターの数学相談にも行きます。何かうまくいかないことがあっても、やり方を変えたり、環境や時代が変わるとできるようになることがあります。逆に、時代が変わって、昔学んだことがあまり役に立たなくなることもあります。特にITまわりは変化が激しいので、常に学び直しが必要です。

途中で専門が変わり、一直線とはいえない人生ですが、人生の岐路ではおかれた環境の中で、「できそうなこと」「やりたいこと」を中心に選択してきたと思います。どのような選択をしてもその中に「学び」があり、その後の人生に影響を与えます。今後もまたいろいろな岐路があると思いますが、自分らしく選択・学びながら生きていきたいと考えています。

全学共通教育「情報基礎」

共通教育では「情報基礎」を担当しています。内容はコンピュータリテラシー教育といって、日常生活の多様な場面でのコンピュータを道具として使いこなすことを目指します。いわゆる「パソコン三種の神器」のワード+エクセル+パワーポイント、メール、タイプ練習、プレゼンテーション、情報検索、レポート作成等をしつつ、コンピュータ・インターネットのしくみやセキュリティ、情報の符号化、著作権等についても学びます。担当教員によって若干違う内容がもりこまれており、私の授業ではウェブサイトの作成に時間をさいています。ウェブサイトを制作は一つの作品づくりであると同時に、文字コードや画像形式、ファイルのパス

とパーミッション等、コンピュータの技術的な側面と、著作権や誹謗中傷等の法律や倫理等、コンピュータの社会的な側面についても自然と学ぶこととなります。プログラミングを学ぶための入り口にもなると思います。自分の手を動かして様々な作品(エクセルやパワーポイントも作品です)を作ることで、ただ講義・テキストを見たり聞いたりするだけよりも、知識は深く長く定着するでしょう。

やうい

「人生でやりたいことはありますか、やりたいものはありますか」

考えてみてください。大学には、それらを考え、準備する時間と機会があります。授業はもちろん、クラブ・サークル活動、アルバイト、留学等、やってみたいものに挑戦してください。その中で、やりたいこと、なりたいものが見つかったらよし、見つからなくてもよし。考えることが大切です。それから、大学生活を楽しんでください。

「人生百年時代」と言います。みなさんはまだ約五分の一。人生は選択と学びの連続です。そのときそのときの気持ちと経験を大切に、自分がよいと思うものを選択し、学んで、生き続けてください。

村上 晴美(むらかみはるみ)

1964年生まれ

1998年 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了 博士(工学)

現在、工学研究科 教授

専攻分野/情報学

全学共通教育での担当科目/「情報基礎」